



# 松野町役場新庁舎

Matsuno Town Office

## 松野町防災拠点施設

Disaster Prevention Center

庁舎・施設案内



このたび、松野町の新たなシンボルとなる新庁舎及び防災拠点施設が完成を迎えました。

これもひとえに町民のみなさまをはじめ、町議会並びに庁舎建設関係者各位のご理解、ご支援の賜物と心から厚くお礼申し上げます。

新しい庁舎は、ユニバーサルデザインを取り入れた「誰もが利用しやすい庁舎」を目指して整備を進めてまいりました。

災害時に町民の安心と安全を守るため、水害対策としての敷地の嵩上げをはじめ、新庁舎には自家発電設備や太陽光発電設備・蓄電池を導入するとともに、各種災害対策設備・機能を集約した「防災拠点施設」を併設しています。

また、利用頻度の高い部署を1階に集約するとともに、交流スペースや図書・学習コーナー、キッズコーナーを設置するなど、利便性の向上と賑わいの創出にも注力いたしました。

更に先進的な省エネ・再エネ技術の導入により、庁舎では、全国トップクラスの環境性能を実現し、地球温暖化対策にも貢献しています。

町民のみなさまには、この新庁舎に愛着と親しみを感じ、町民活動や交流の拠点として大いに利用していただきますことを願いたします。

新庁舎の完成を機に、職員一丸となって更なる町民サービスの向上に努めてまいりますので、関係各位の一層のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



施設概要

Overview

施設用途	庁舎・防災拠点施設
階数	地上2階建て
構造	1階:鉄筋コンクリート 2階:木造(外壁:CLT耐震パネル) 耐震構造
敷地面積	5,313.58㎡
延床面積	2,760.12㎡ (庁舎:2,066.64㎡・防災拠点施設:490.33㎡・付属棟:203.19㎡)

建物高さ	10.38m
BELS評価	☆☆☆☆☆(Nearly ZEB) 最高ランク5つ星取得 ※建築物省エネルギー表示制度 (国のガイドラインに基づく省エネ性能等の評価・表示)
工期	令和2年9月1日～令和4年8月31日
設計監理	株式会社大建設設計大阪事務所
施工	宮田・松野特定建設工事共同企業体

建設経過

History

平成25年 8月	新庁舎建設等検討委員会設置
平成29年 9月	基本構想策定
平成30年10月	住民説明会開催(基本計画関係) 住民アンケート調査実施(〃)
12月	建設基本計画パブリックコメント実施
平成31年 1月	建設基本計画策定
3月	基本・実施設計公募型プロポーザル実施
令和元年10月	住民説明会開催(基本設計関係)
7月	町民ワークショップ開催(〃)
令和2年 3月	基本設計・実施設計完了
9月	山村開発町民センター解体工事完了 (新庁舎建設地)
10月	建設工事着工
令和3年12月	建設工事竣工(建物部分)
令和4年 2月	開所式・供用開始
8月	旧庁舎解体及び外構工事竣工
9月	落成記念式典開催

事業費・財源内訳

Expense

<b>【事業費】</b>	
設計監理費	88,896千円
建設工事費	1,663,230千円 (旧庁舎解体・外構工事を含む。)
<b>合計</b>	<b>1,752,126千円</b>
<b>【財源内訳】</b>	
二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金	
(レジリエンス強化型ZEB実証事業)	131,922千円
公共施設等適正管理推進事業債	1,032,250千円
(市町村役場機能緊急保全事業)	
緊急防災・減災事業債	374,758千円
過疎対策事業債	19,600千円
一般補助施設整備等事業債	35,400千円
庁舎建設基金	158,196千円
<b>合計</b>	<b>1,752,126千円</b>

# 設計コンセプト

新庁舎等建設の基本理念 ▶▶▶ 設計の考え方

1 町民の安心と安全を守る庁舎

～災害発生後に建物機能を維持する耐久性・安全性に優れた庁舎～  
・新庁舎に防災拠点施設を併設し、災害対策機能を強化

2 町民に親しまれ、利用しやすい庁舎

～高齢者や障がい者を含めたすべての人にやさしい庁舎～  
・来庁者に分かりやすく利便性に優れた動線・平面計画

3 賑わいを創出する庁舎

～まちに賑わいを生み出す町民のための交流拠点となる庁舎～  
・協働のまちづくりを象徴する、まちに開かれた交流スペースを計画

4 環境に配慮した庁舎

～環境配慮手法の採用による省エネルギー性に優れた庁舎～  
・太陽光発電+蓄電池設備など、自然エネルギーを有効活用

5 事務効率の向上を目指した機能的な庁舎

～機能性や利便性、可変性に優れ既存施設との連携が可能な庁舎～  
・議場の多目的利用や既存施設との連携を考慮した計画

## 建物デザイン・シンボル柱（磨き丸太）



### 歴史性・地域性を象徴する建物デザイン

自然豊かで、酒屋の蔵屋敷の残る松野町の伝統意匠を継承しつつも現代的に解釈し、美しい山並み景観と調和するよう配屋根をリズムカルに配置した外観デザインとしています。

### 「森の国まつの」を象徴する建物デザイン

CLT（直交集成板）外装木仕上げや集成材の柱・梁、待合ロビーのフローリング、内装木仕上げなど、松野町の地域産材を活用した長く町民に愛され、親しまれるシンボリックな外観・内観デザインとしています。

〔建物構造材：スギ、内装仕上げ材：ヒノキ〕

※木材は、吉野葛川地区町有林の主伐・間伐により調達し、主伐後は再造林（植林）による森林整備を行いました。

### 新庁舎シンボル柱（磨き丸太）



新庁舎のシンボルとして2本の「磨き丸太」を待合ロビーに設置しています。

シンボル柱は、昭和30年の松丸町と吉野生村の合併により誕生した「松野町の歴史性」と、「町民と行政による協働のまちづくりを行う地域性」を表現しています。

柱材は、滑床山国有林（滑床キャンプ場内）の樹齢約120年生の「ヒノキ（直径約80cm・高さ8m）」を使用しています。



# 1階フロアガイド

## 庁舎1F

1F

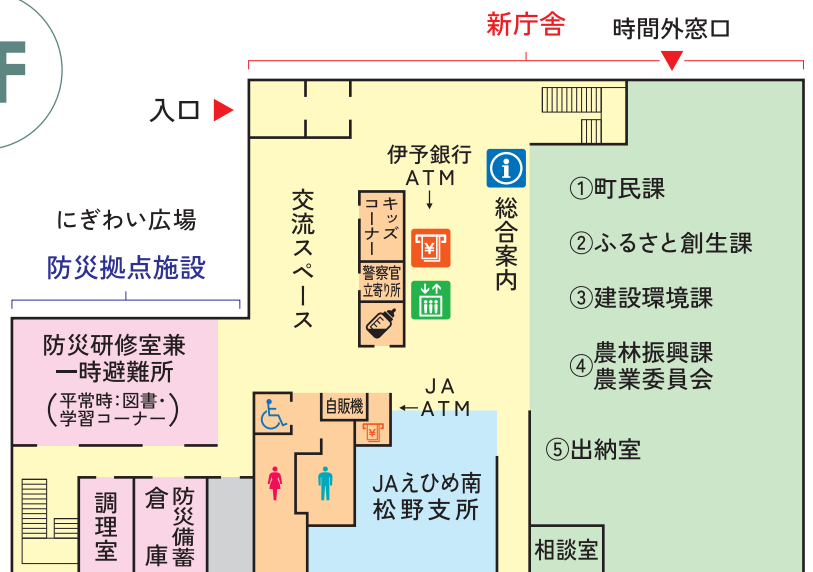
### 総合案内

- ①町民課
- ②ふるさと創生課
- ③建設環境課
- ④農林振興課・農業委員会
- ⑤出納室

交流スペース、キッズコーナー、授乳室  
ATM、自動販売機、警察官立寄り所  
JAえひめ南松野支所、相談室

### 防災拠点施設1F

防災研修室兼一時避難所  
(平常時：図書・学習コーナー)  
防災備蓄倉庫  
調理室



### ● 視認性の高い窓口部門

総合案内と1階執務室、JAえひめ南松野支所の窓口は、来庁者が分かりやすいように玄関・待合ロビーに面した配置としています。



待合ロビー・総合案内・1階執務室・窓口

### ● 利便性の高い執務空間

ワンフロアで行政手続きができるように町民の利用頻度の高い窓口(課)を1階に集約して配置しています。



交流スペース・キッズコーナー・授乳室

### ● 交流スペース

町民が気軽に集い、交流を育むスペースをにぎわい広場に面する南側に配置しています。交流スペースは、イベントや展示のほか、災害時の一時避難所・災害活動スペースとしても活用します。

### ● 待合ロビー

キッズコーナーや授乳室、ATM、自動販売機を設置することで、有効的な時間利用を可能としています。



防災研修室兼一時避難所(平常時：図書・学習コーナー)

### ● プライバシーを守る

相談室や打合せ室を奥まった場所に配置するとともに、防音仕様の相談室や仕切り壁を設置したオープンカウンターなど、相談内容に応じた相談スペースを設置しています。

### ● 多目的利用が可能な計画

防災研修室兼一時避難所は移動間仕切りを採用し、平常時は図書・学習コーナーとして開放しています。近接した交流スペースとの一体利用や会議室として有効活用できます。

### ● JA松野支所の入居

町民の利便性向上のため、庁舎にJAえひめ南松野支所が入居しています。

### ● にぎわい広場

交流スペースや防災研修室と一体的利用ができます。災害時には防災活動スペースになります。

# 2階フロアガイド

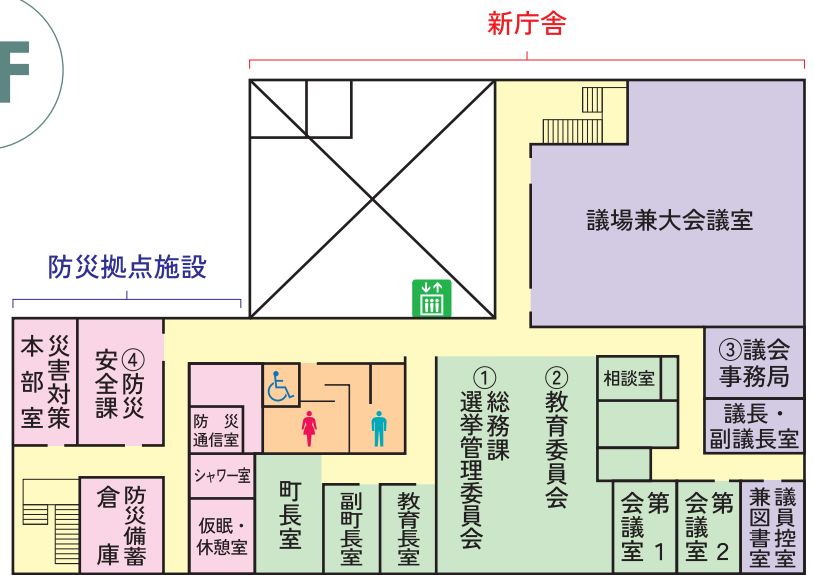
## 庁舎2F

2F

- ①総務課・選挙管理委員会
- ②教育委員会
- ③議会事務局
- 町長室、副町長室、教育長室
- 議場兼大会議室
- 議長・副議長室、議員控室兼図書室
- 第1・第2会議室、相談室

## 防災拠点施設2F

- ④防災安全課
- 災害対策本部室
- 防災通信室
- シャワー室
- 仮眠・休憩室
- 防災備蓄倉庫



### 空間構成

吹抜けを中心に執務エリア・議場エリア・防災エリアを配置した、分かりやすい空間構成とし、吹抜けによって、館内全体の視認性を高めています。

### 防災拠点施設の併設

災害時の拠点となる防災拠点施設は南側1・2階に集約配置し、防災安全課を配置するとともに、町長・副町長・教育長室を近接配置することで、防災機能・指揮系統をより強化しています。



議場兼大会議室(多目的利用可)



2階執務室

### 議場の多目的利用

議場は平土間形式や移動型家具を採用することで、大会議室やイベント会場としての使用など、多目的な利用を可能としています。

### アクセスしやすい執務室

2階執務室は、1階からのアクセスがしやすいように階段やエレベーターから分かりやすい配置としています。

### 可変性に優れた会議室

会議室は、移動間仕切壁で間仕切ることにより、小会議から中会議室としての利用を可能としています。



吹き抜けを中心に執務エリア・議場エリア・防災エリアを配置



第1・第2会議室(移動間仕切り壁採用:小・中会議室利用)

# 建物の特徴

Feature

# 「災害対策機能を兼ね備えた環境配慮型庁舎」

～災害時行政機能の継続、脱炭素化・カーボンニュートラルへの取組～

## 負荷の抑制

Low-e複層ガラス、高断熱化、CLT耐震壁、クール(ヒート)ピットなどにより、負荷の抑制を図ります。

## 自然エネルギー利用

太陽光発電・蓄電池による電力供給、吹き抜けを利用した自然換気・自然採光により、室内環境の向上、省エネルギーを図ります。

## 高効率設備システム

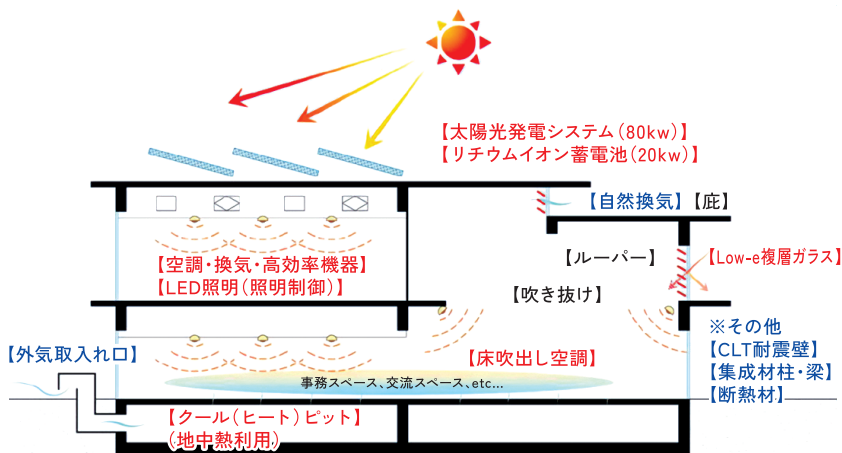
全館LED設置、高効率機器(空調・換気)、床吹き出し空調、省エネシステム(BEMS)を採用し、設備の長寿命化とランニングコストの低減を図ります。

## 建物のZEB化

『ZEB(Nearly ZEB)の認証取得』

先進的な省エネ・再エネ技術の導入により、国土交通省の建築物省エネルギー性能表示制度、通称「BELS(ベルス)」において、建物の設計段階の一次エネルギー消費量を81%削減し、庁舎では、全国トップクラスの環境性能となる「ZEB(Nearly ZEB)」の認証を取得しました。

# Environment 環境



床吹き出し空調・待合ロビー

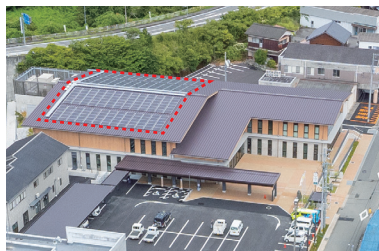


BELS認定証

※ZEB(ゼブ)とは Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称で、建物のエネルギー使用量を省エネ機器を駆使して減らし、それでも減らせない分は太陽光発電などの再生可能エネルギーを利用して賄うという考え方で設計・建設された建築物です。

新庁舎・防災拠点施設の一次エネルギー消費量削減率は81%で、その内訳は省エネ機器の採用による削減が55%、太陽光発電設備の導入による削減が26%となっています。ZEBのランクでは、4段階中、上位から2番目の「Nearly ZEB(75%以上削減)」を取得しています。

ZEBランク	建物用途	一次エネルギー消費量削減率(左:省エネのみ/右:割エネ含む)
ZEB	すべて	50%以上 100%以上
Nearly ZEB	すべて	50%以上 75%以上
ZEB Ready	すべて	50%以上 -
ZEB Oriented	事務所、学校等(上記以外用途)	40%以上(30%以上) -



太陽光発電パネル(80kw) + 蓄電池(20kw)



吹き抜け・自然採光

# 災害

# Disaster

## 防災拠点施設併設

災害対策機能を強化するため、新庁舎南側に防災機能を集約した「防災拠点施設」を併設し、町民の安心と安全を守ります。

## 敷地の嵩上げ

平成30年7月豪雨災害時の浸水レベル(50cm)より30cm高くすることで、河川氾濫による建物の浸水を回避します。

最大80cm敷地嵩上げ

## 非常用発電設備

停電時に業務の継続が図れるように非常用発電設備を整備し、最低3日間(72時間)以上の連続運転が可能となるよう燃料を備蓄します。

## 重要設備の保護

水没による停電・損傷を防ぐため、特に重要な非常用発電や蓄電池、サーバーなどの設備を2階に配置しています。

## インフラの断絶に対する適切な備え

災害などによりインフラが断絶した場合でも、機能が継続できるバックアップ対策を講じています。



敷地嵩上げ(最大80cm)



非常用発電設備(3日間以上の燃料備蓄)

## 電源確保

太陽光発電設備・蓄電池(電力供給)  
非常用発電設備(3日間以上の燃料備蓄)

## 通信継続

通信引込・回線(IP・アナログ)の多重化

## 熱源・空調

電気・ガス併用熱源  
非常用発電設備からの電源バックアップ

## 飲料水

庁舎内受水タンク(15t)  
ペットボトル備蓄

## トイレ

庁舎内受水タンク(15t)  
非常用電源対応

# 建物の特徴

Feature

## 「地域産木材の活用」

～先人が未来のために守り育てた森林資源の活用～

### 木材調達

新庁舎・防災拠点施設に使用した木材は、先人が未来のために守り育てた町有林(吉野葛川地区)の主伐・間伐事業との連携により調達しています。伐採後は、松野中学校生徒による植樹体験イベントを開催するなど、環境教育と森林の循環・保全に努めています。

### 木材使用部分

構造材に「スギ」を、内装仕上げ材には「ヒノキ」を使用しています。2階を木造とすることで、建物の軽量化を図り、耐震性の向上に加え、1階躯体及び基礎コストを抑制しています。内装も「森の国まつ」を象徴する建物となるよう木質化に努めています。

### CLTの活用

2階木造部の外壁には、新たな木質部材のCLT耐震パネルを採用しています。CLTは、構造躯体として建物を支えるとともに、断熱性や遮炎性、遮熱性、遮音性などの複合的な効果も期待できます。

※CLT:直交集成板  
(Cross Laminated Timber)

木材使用部分	樹種	区分	樹齢	数量
構造材(大断面集成材・CLT)	スギ	主伐	約50年生	約850m <sup>3</sup> (約2,300本)
内装・仕上げ材	ヒノキ	間伐	約50年生	約120m <sup>3</sup> (約500本)



R2.8.5 吉野葛川町有林主伐前

町有林:伐採前(令和2年8月)



R3.1.6 吉野葛川町有林主伐後

町有林:伐採後(令和3年1月)



伐採後の植樹体験(松野中学校1年生)



南側外観 2階木造部分外壁:CLT耐震パネル(町産スギ)



2階構造材 柱・梁:大断面集成材(町産スギ)



待合ロビー フローリング・内装仕上げ材(町産ヒノキ)



2階議場兼大会議室 議場机・天然木の壁紙(町産ヒノキ)

# 敷地配置図

## 良好な街並み景観の創出

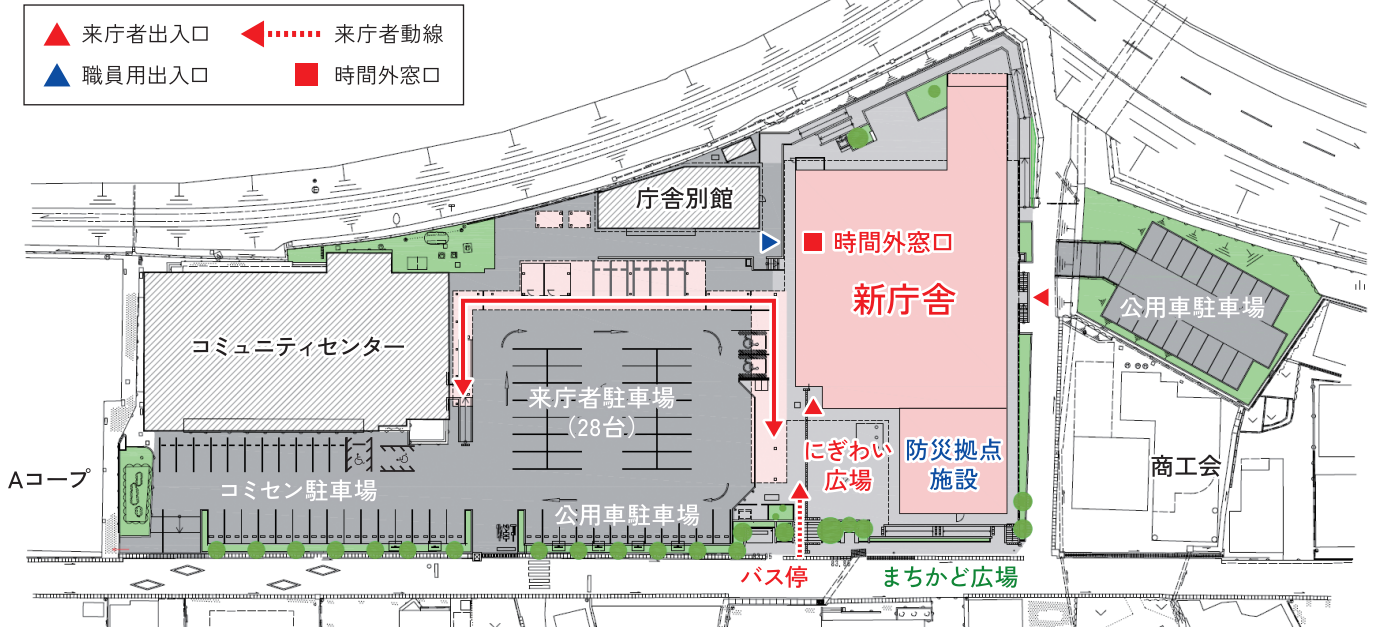
多目的利用が可能な「にぎわい広場」と「まちかど広場」を庁舎の南側に配置しています。まちかど広場には高木とベンチを配置し、誰もが気軽に利用できる町民憩いのスペースを創出。駐車場南側にも植栽帯を配置し、緑豊かなうるおいが感じられる景観を形成しています。

## 敷地内の歩車分離

南側正面玄関前に誰もが安全に利用できる、歩行者専用の「アプローチ通路」と「にぎわい広場」を配置することで、敷地内の歩車分離を徹底しています。

## 利便性に配慮した動線

3か所に出入口を設けることで、利用者と職員の利便性を高めています。バス停をにぎわい広場西側の町道付近へ移設し、待合を兼ねた新庁舎(交流スペース)の利用を可能としています。



## 安全性・利便性を徹底した駐車場

駐車場は一方通行とし、分かりやすく安全な配置としています。利用者の利便性を考慮し、車いす駐車場を庁舎玄関付近に隣接させ、屋根付きの車寄せスペースを設置しています。

## 別棟との連携

新庁舎とコミュニティセンターや車庫をつなぐ屋根付の連絡歩道や別館出入口と近い位置への職員用出入口配置で施設の相互利用・連携を可能としています。

## 駐車場の多目的利用

来庁者駐車場中央部の駐車区画止めブロックの設置を取止めることにより、イベント広場や災害活動スペース(防災広場)としての利用を可能としています。



## 交通のごあんない

Access

- 松山自動車道三間ICより ..... 20分
- 高知自動車道窪川ICより ..... 1時間20分
- 宇和島市内より国道320号線で ..... 25分



## 松野町役場

〒798-2192 愛媛県北宇和郡松野町大字松丸343番地  
 TEL 0895-42-1111(代) FAX 0895-42-1119  
 URL <https://www.town.matsuno.ehime.jp>

